

### 3. 盛岡大学言語教育研究委員会 (Morioka Daigaku Institute of Language: MODIL) について

#### 一、設置の背景

平成 12 (2000) 年度にまとめられた「21 世紀委員会」の答申を受け、理事長が本学学長にあるべき大学・短大の改組の検討を指示して、学長が組織した「改組検討委員会」が平成 13 (2001) 年 9 月に発足した。

この委員会は変化する社会情勢の中、大学・短大のあるべき姿を検討するものであった。しかし、一般には大学教育における教養教育と英語教育の重要性が言われる中で、本学は英米文学科 (当時) を設置し、外国語・日本語教員も大学・短大を合わせれば多くいることから、社会のニーズに応える語学運用能力を全学生に身につけさせるための教育システムを構築できないか、という学長の強いリーダーシップによって改組検討委員会の中に「語学教育検討部会」が平成 14 (2002) 年 4 月に設置された。

この語学教育検討部会の報告は同年 7 月に提出され、その中に提言された「(仮称) 語学教育センター設置準備委員会」が平成 15 (2003) 年 2 月に発足した。この準備委員会の答申は同年 7 月に提出され、以降は英米文学科 (現英語文化学科) の英語教員が中心になってワーキンググループが作られて、2 年近くにわたり様々なプログラムを実践する中で「(仮称) 語学教育センター」の事業として本学の現状に合ったものが検討された。

そして、平成 18 (2006) 年 11 月に「(仮称) 語学教育センター設置準備委員会」の答申にあった「Morioka Daigaku Institute of Language」(MODIL) を比較文化研究センター内に設置する案が、比較文化研究センター運営委員会で議決されて設置されることになった。

#### 二、MODIL の概要

MODIL は、大学・短大の英語とそれ以外の外国語および日本語・国語教育を専門とする教員によって構成される企画委員会を中心に運営される。さらに事業を推進するにあたって、事業推進委員会をその中に設置して運営している。

MODIL の事業は、その運営方法を定めた内規によると、次の 5 つのものが挙げられている。

- (1) Intensive English Program
- (2) Language Island of Morioka (LIM)
- (3) Computer Assisted Language Learning (CALL)
- (4) 広報誌の発行
- (5) その他言語教育・研究の事業

これらを具体的に実践するものとして、

- ・ カモーンソカレッジからの留学生とのチャットタイム (週二回)
- ・ Intensive English Workshop (英語集中キャンプ。本学と提携している国立岩手山青少年交流の家などの研修宿泊施設で一泊し、英語のネイティブと共に英語のみの生活を経験する)

## 盛岡大学

- ・ 言語教育ワークショップ (各界の言語研究者、言語教育実践家などを招いての講演会、言語教育のための教材作成などの体験)
- ・ 国際学術フォーラム (米国などから講師を招聘し、日本人講師と共に言語・社会・文化を巡るフォーラムを行う。使用言語は英語を基本とする)
- ・ 『言語教育研究』の発行

を行っている。

学生に対する MODIL の事業は、通常の授業の中ではなかなか教授できない教育内容を補完する意味を持っている。また、「言語教育」「言語研究」という点で、学内に在職する英語・日本語をはじめ様々な言語を専門とする教員が糾合する組織となっており、本学の教育研究の特色を現す組織といえる。